

愛国・幸福駅・恋人の聖地
呼び込め純愛
④ 中国や台湾「縁起いい」

PRへ経済人が提唱

愛国・幸福を、首都圏や道央圏にどうアピールしていくか。一部の経済人が提唱しているのが、帯広空港の愛称を「かち帯広空港」から「十勝幸福空港」に変更する案だ。

帯広市内の佐々木義盛フシ防災社長は「幸福というありがたい名称の方が魅力的。十勝に観光客を呼び込む売りになる」。柳月の田村昇社長

幸福駅のハッピーセレモニーで、幸福の鐘を鳴らして笑顔をみせる参加へア



も「幸福空港になれば全国の空港で名前がアナウンスされ、若者への発信効果も大きい。中国や台湾、香港などの漢字圏でも幸福という字は縁起がいいというので呼び水になる」と強調する。

さらに佐々木社長は「帯広駅の名前も帯広幸福駅か十勝幸福駅になれば空港との相乗効果が生まれる」と提言。実際に地域の特色を出した観光振興で、高知空港は歴史上の人物

地名生かした戦略

を活用した「高知龍馬空港」、JR弟子屈駅は知名度の高い摩周湖にちなんで「摩周駅」に変えた先例もある。

このほか東京羽田―帯広間を「純愛空路」と愛称を付ける案なども浮上。市空港事務所では「JALの相次ぐ減便や廃止で厳しいのが現在の地方航空情勢。愛をテーマにしたオール十勝のキャッチフレーズがあれば、愛国、幸福両駅だけでなく空港の活性化にもつながる」と波及効果を期待する。

民間も模索の動き

愛国や幸福の地名を生かした戦略では、ウエディング体験も活性化策の1つだ。市は2002年から幸福駅で「ハッピーセレモニー」と題し、ドレスやタキシードを貸し出して愛を誓う機会を提供。昨年は216組が参加した。今年6月には九州の老夫婦が子供たちからのプレゼントでハッピーセレモニーのため来勝したケースもあり、愛国駅でも写真が求められている。

空港や帯広駅の愛称変更提案